

# 和太鼓響かせ、つなぐ伝統

いま  
子どもたちは  
森の学校

No.412

10

し奏でていた。正式な部活動ではなく、週に1度、放課後にある教養講座の一つだ。

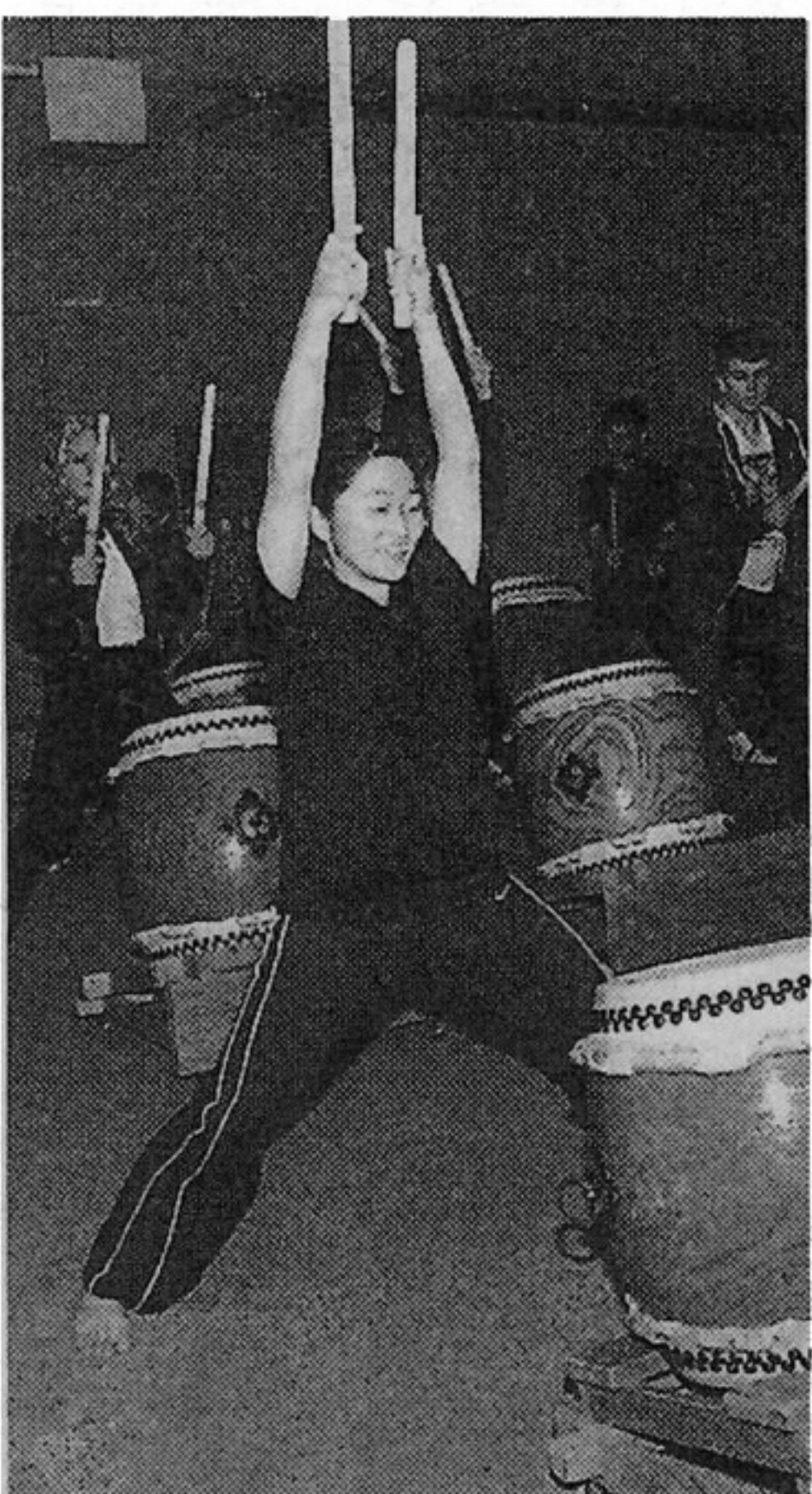
指導者は地元の五ヶ瀬太鼓の担い手、甲斐伸一さん(45)。

「この子らの演奏はまだまだ」と厳しいが、一人ひとりを丁寧に指導する。ほぼ毎月、町内の祭り、老人ホームの慰問、県のイベントなどで演奏。部長を務める5年(高校2年)の金丸侑香さん(16)は「地元の人に『あんな、こないだ太鼓しちよった

がねー。頑張っつて』と、道で声をかけられることもあるんです」と笑顔を見せる。

祭りやイベントでは、甲斐さ

ん率いる玄人チーム9人と合同で演奏することも多い。甲斐さんは「五ヶ瀬太鼓の担い手は高齢化している。若い人が入ってくると活気が出ます」。週に1度では練習時間が足りず、部員は毎朝約30分、自主練



五ヶ瀬太鼓の練習をする金丸侑香さん(中央)＝宮崎県五ヶ瀬町

習をしている。ただ、部員の多くは他の部活動との掛け持ち。休日だと、部活動の大会と太鼓の公演が重なることも多い。みんなが部活動を優先し、6人だけで演奏したことも。少人数だと、なかなか迫力が出ない。

「地元密着型」の太鼓部の活動を本格化させようと、学校は来年度から正規の部活動にする予定だ。これにより、多くの部員は現在の部活動を続けるか、太鼓を続けるかの選択を迫られてしまう。

3年の渡辺悠衣さん(15)はバスケットボール部を選ぶとい

「森の学校」は終わり、次回は21日から始めます。

◇  
ドンドコドンドン……。

(斉藤純江)